

3号機のデブリ分布・RPV・PCV状態の推定図

凡例

- 水素発生によるPCV圧力上昇からエネルギー量を想定し、大部分の燃料が溶融したと推定。(実測・解析)
- 平成25年12月9日～24日までCS系を停止した時(FDWからの流量を増やし全注水量としては一定)、RPV各部で温度上昇は見られなかったため、炉心位置に存在する燃料デブリは少ないと推定(2号機より少ない)。(実測)
- 上述の話とあわせ、CS系からの注水開始により総注水量が増加した時(平成23年9月1日)にRPV下部温度が低下したため、燃料デブリが下部プレナムにあると推定。(実測)
- ミュオン測定の結果、もともとの炉心域には燃料デブリの大きな塊は存在していない可能性。(実測)

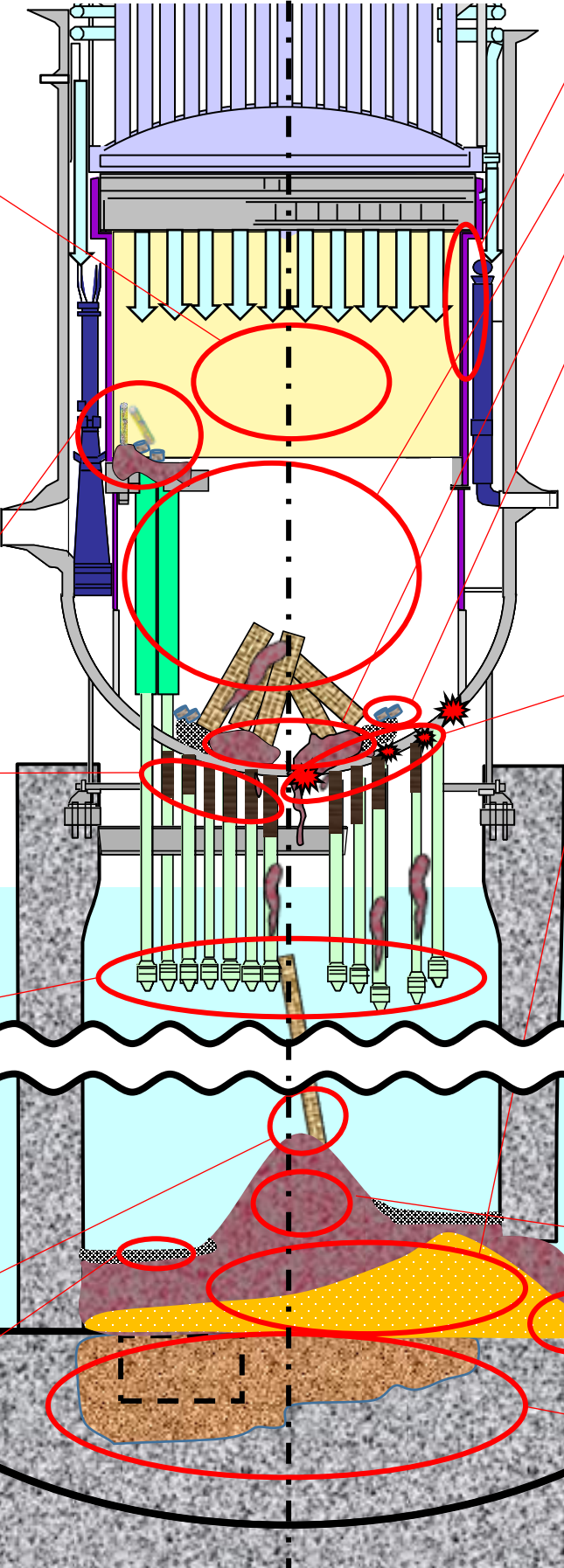
- 外周部における燃料の温度上昇はそれほど高くない可能性があることから、燃料棒残骸およびペレットが外周部に残っている可能性。(一般的な推定・試験・解析)
- 燃料棒があるとしても外周部に一部。(一般的な推定)
- 溶融燃料が固化した一般的な酸化物デブリと推定。(一般的な推定)

- CRGTやCRDハウジングの破損に伴いCRDハウジング内部に燃料デブリや溶融した金属が若干侵入している可能性。(一般的な推定・試験)

- PCV内部調査の結果、2号機と比較してペDESTAL内の損傷が進んでいる様子が確認できており、PCVに落下した燃料デブリの量も2号機と比較して多いものと推定。(実測)
- プラットフォームが損傷している様子が確認されており、高温のデブリが落下した影響と推定。(実測)
- CRDハウジング支持金具の損傷および溶融物が固化したとおもわれるものの付着が確認されており、当該部を含め、その上下位置あるいは周辺には燃料デブリが存在する可能性。(実測)

- ペDESTAL下部において溶融物が固化したと思われるものやグレーチング等の落下物、堆積物を確認。(実測)

- PCV床に水が溜まっていた場合、粒子状デブリが形成された可能性。(一般的な推定)
- 粒子状デブリがある場合、淀み部にたまる可能性。(一般的な推定)



- 現状シュラウドについては、健全な可能性および損傷のある可能性、双方考えられる。(一般的な推定・解析)
- 高温の溶融デブリからの熱移動が小さい場合、一部のCRGTは溶けずに残る。(一般的な推定)

- ミュオン測定の結果、原子炉圧力容器の底部には、不確かさはあるものの、一部の燃料デブリが残っている可能性。(実測)

- 粒子状デブリ・ペレットがある場合、淀み部にたまる可能性。(一般的な推定)

- CRGTと推定される構造物が圧力容器外へ落下していることから、少なくともCRGTが落下する程度の大きさの破損口が開いたものと推定。(実測)
- ペDESTAL内で水面の揺らぎがRPV中央部および外周部で確認されたことから、RPV中央部および外周部に破損口が存在する可能性。(実測)
- CRDハウジング下部においてフランジ面が段違いになっていることから、CRDハウジングと圧力容器底部の一部の溶接部が固着されていないと推定。(実測に基づく推定)

- 燃料デブリの一部はMCCIを起こさず固化した可能性。(一般的な推定)
- 事故対応の中で3月13日7:39から1時間強DWスプレイを実施しており、圧力容器破損時にDW床に水位があると考えられ、燃料デブリの拡がりは抑制された可能性。(実測・一般的な推定)
- ペDESTAL開口部を通じて、燃料デブリがペDESTAL外まで広がるが、シェルアタックには至っていないと推定。(実測・解析)

- 格納容器内部調査の結果から、ペDESTAL床に堆積した物質は、ペDESTAL開口部側が高く、反対側に向けて高さが低くなっている。また、ペDESTAL中央部は山のように盛り上がっている状況。(実測)

- 4号機に加えて、3号機でも爆発が起こっており、MCCIにより発生した水素が爆発に寄与した可能性が考えられる。(実測)

	残留燃料棒及びその残骸
	酸化物デブリ(多孔質)
	粒子状デブリ
	燃料デブリ(金属を多く含む)
	コンクリート混合デブリ
	CRGT
	破損したCRGT
	CRD
	CRD(内部にデブリ)
	シュラウド
	破損したシュラウド※
	ペレット
	RPV破損口
	上部タイプレート※
	堆積物(材質不明)※
	バルーニング燃料※
	酸化物デブリ※
	重金属デブリ※
	粉状ペレット※
	被覆管残渣※
	溶融炉内構造物※
	固化B4C ※
	制御棒混合溶融物※

一点鎖線は圧力容器内・ペDESTAL内の状態が非対称であることを表現 ※3号機の推定図中では使用していない